

## 平成30年度 学校経営計画及び学校評価

### 1 めざす学校像

<p><b>教育方針</b></p> <p>豊かな情操と気品ある人格を育み、 これからの社会を支える 健全な精神を持つ若者を育成する。</p>	<p>夕陽丘教育の4つの柱</p> <div style="border: 1px solid #f08080; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">1. 一人ひとりの進路を実現できる学力を身に着ける学校</div> <div style="border: 1px solid #f08080; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">2. 自ら考え、行動できるように自主自律の心を養う学校</div> <div style="border: 1px solid #f08080; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">3. 国際的視野をもち、社会の変化に対応できるグローバル人材を育成する学校</div> <div style="border: 1px solid #f08080; padding: 5px;">4. 国内最高レベルの音楽教育を推進する学校</div>
<p>「情操」とは 美しいものや優れたものに対して素直に感動できる心。相手の良い所に気づき、相手を敬う事が出来る力。</p>	<p>「気品」とは 落ち着いた振舞い、優しい気持ちで、人と接することのできる精神的な美しさ。</p>

### 2 中期的目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全ての教育活動にグローバル人材の育成、自主・自律の観点を取り入れる。</li> <li>■ 3SK【SEIRI、SEITON、SEISOU、KIKIKANNRI】で学力向上と働き方改革を推進する。</li> </ul> <p>1. 「進路希望実現」に関する中期的目標</p> <p>(1) 次期学習指導要領を見据えたカリキュラム・マネジメントを確立し、「確かな学力」を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 総合的な学習の時間「夕陽学」を軸に、各教科・教育活動の見える化を図り、カリキュラム・マネジメントを生かす。</li> <li>② 指導教諭を中心に、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を行い、その評価方法について研究する。</li> <li>③ 次期学習指導要領の内容について、各教科で国の動向を把握し、教育課程の検討を始める。</li> </ul> <p>(2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路目標を明確にし、実現につなげる。(平成28年度 学校経営推進費事業において取り組む)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>④ 各学年の生徒に応じた進路の取組を行う。: スケジュールの早期提供、模試の事前・事後指導、学びの履歴書の作成 : 志望校決定率 70%以上、国公立・関西5私大(関関同立近大)200名合格(H29: 60% 341名)</li> <li>⑤ 3SKで働き方改革と一つ上の成績をめざす。</li> </ul> <p>2. 「自主・自律」に関する中期的目標</p> <p>(1) 基本的生活習慣を確立し、学業及び行事に主体的・協働的に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑥ 学生自治を基本に、学校生活・行事・部活動に主体的・協働的に取り組み、快活な学生を育てる。 : 自己診断90%維持(H29: 生徒92.6%)</li> </ul> <p>(2) 学校、保護者、地域が一体となって安心安全で温もりのある学校・街づくりに参画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑦ 「こころの再生」にかかるあいさつ、学校・地域のクリーンアップ、高齢者施設、病院との交流活動を行う。</li> <li>⑧ 教育相談・支援体制に基づき、家庭、専門人材、外部機関等と連携し、生徒一人ひとりに応じた教育活動を推進する。</li> <li>⑨ 「夕陽丘高校いじめ防止基本方針」に基づき、「夕陽丘高校いじめ対策組織」を中心に、学校全体でいじめの未然防止、早期発見・早期解決に取り組む。</li> <li>⑩ 防犯・防災を含む危機管理体制を日常化し、安心安全な教育環境を整える。</li> </ul> <p>3. 「グローバル人材育成」に関する中期的目標(平成28年度 学校経営推進費事業において取り組む)</p> <p>(1) YGR(*1)と連携し、海外研修や授業等を通じて、多様性を理解するとともに、自身のキャリアデザインを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑪ 海外修学旅行、ニューヨーク語学研修、ウィーン音楽研修を継続、ニューヨークフィールドワークを新規企画する。</li> <li>⑫ グローバルに使える力として多様性・英語の4技能をバランスよく育成する。 : 英語学力調査のスコア 2020年度: 500、英検合格 2020年度: 40名(H29: 英語学力調査のスコア488、英検2級合格者58名)</li> <li>⑬ 学校経営推進事業の集大成としてワールドフォーラムを実施する。</li> </ul> <p>(2) YGRと連携し、国内にいながらにして国際交流を体験できるような様々な機会を提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑭ 海外からの学校訪問や留学生を積極的に受け入れ、日々の学習活動と関連をもたせ、国際交流の内容を深化する。 : 姉妹校: クラークスタウン北高校(アメリカ・ニューヨーク)、鳳新高級中学(台湾)</li> <li>⑮ 生徒の主体的な取組を含め、国際交流の活動を学校全体で計画的に行う。</li> </ul> <p>4. 「国内最高の音楽教育」に関する中期的目標</p> <p>(1) 国や府の推進事業等を積極的に活用し、国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン、特別公開講座を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑯ 国際舞台で活躍することを意識した特別レッスン、特別公開講座を取り入れる。</li> <li>⑰ 一流の指揮者を招聘して、ザ・シンフォニーホールでの定期演奏会、音楽科25周年(2020年)事業を企画する。</li> </ul> <p>(2) 生徒等の企画運営による学内演奏会やアウトリーチ活動を展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑱ 校内のヴィオーラホール等を活用して、また、近隣ホール・小学校、地域での音楽会を実施する。</li> </ul> <p>(3) 国内及び海外の大学等と連携し、交流を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⑲ 大阪教育大学、台湾、オーストラリア、ハワイの学校と交流を継続する。</li> </ul> <p>※ ⑳上の1.~4.を含む学校の取組の広報の在り方を検討する。: 中学生対象の説明会、WEBページ、掲示板、学校通信</p>
--

### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年10月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>生徒については、肯定的回答率が2年続けて80%以上を占めるものが19項目中13項目で、そのうち85%を超える項目は6項目です。「友達関係」「行事への取組」「あいさつ」「国際交流」等で高い数字となっており、概ね学校生活が充実し、過ごしやすい雰囲気であると考えます。</p> <p>保護者については、19項目中16項目で肯定的回答率が80%を越える結果になっており、特に「学校の特色」「友達関係」「行事への取組」「部活動」「国際交流」「PTA活動」においては90%以上の高い評価をいただいています。今年度は自然災害等の影響で、メールマガジンに関する問合せとトイレに関するご意見をいただきました。メールマガジンについては、府のサーバーの使用が集中すると、届きにくくなることもあるので、緊急時は本校Webページの「緊急連絡掲示板」を活用するよう連絡し、わかりやすくなったと評価いただいています。合わせて、メールマガジンに代わる連絡方法を研究していきます。トイ</p>	<p>第1回(5月29日)の協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTの活用について <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒のアンケートにクラウドサービスを利用することは、生徒の学びの記録と教員の働き方改革からとてもいいと考える。</li> <li>・授業にスマートフォンを有効に取り入れてもいいのではないか。→府に確認する。</li> <li>・ICTを活用しわかりやすい授業を展開されているが、対面的なコミュニケーションも大切であり、アナログを好む生徒もいる中で、配慮してICTを活用する必要がある。</li> </ul> </li> <li>○学校と保護者との関係について <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者対象の講演会の参加者を増やしたい、また参加できない保護者に対してその内容を知らせることはできないか。→実施日時と周知方法を検討する。</li> </ul> </li> <li>○授業力向上について <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上のため相互見学を行っているが、教員全員が「見る」と同時に「見られる」工夫が必要である。→公開月間の実施方法を工夫する。</li> </ul> </li> </ul>

## 府立夕陽丘高等学校

レについては、10月末に府の洋式化改修工事が完了し、インスタ映えするトイレと生徒にも好評です。

今後も生徒、保護者の皆様、教職員、卒業生の皆様が一体となり、「オール夕陽」でより良い環境づくりを進めてまいります。

なお、学校教育自己診断の詳細は本校 Web ページでご覧いただけます。

## 平成 30 年度学校教育自己診断 肯定的回答率

	質問項目	H30	H29
生徒	学校での友達関係はうまくいっている。	94.3	94.8
	学校行事は充実していて楽しい。	90	92.9
	学校行事等では、クラス・学年・学校全体で協力して取り組んでいる。	89.1	92.6
	学校内で、先生や来客の方にあいさつができています。	88.2	91.1
	国際感覚を養うような国際交流の機会がある。	89.6	90.6
保護者	この学校には、他の学校にない特色がある。	91.8	93.7
	学校での友達関係はうまくいっている。	92.1	95.2
	体育祭や文化祭などの学校行事は、活発に行われている。	96.7	97.7
	部活動は、活発に行われている。	90.7	91.2
	学校は、子どもの国際感覚を養うような国際交流行事を実施している。	93.2	91.1
	PTA活動は、活発に行われている。	91	91.3

第2回（10月23日）の協議

○保護者（音楽科）の立場から

- ・音楽科生徒による校内演奏会（ピッコロコンチェルティスタ）について、演奏会の回数を増やしたり、生徒個人の演奏時間を長くしたりすることはできないか。→別途実施している。

○進路指導について

- ・音楽科の進路状況は資料①（学校経営計画進捗状況）の1（進路希望実現）の項目に含まれているのか。4（国内最高の音楽教育）の項目の中に載せる方がいいのではないか。→記載方法を検討する。

○生徒の様子について

- ・1年生（73期生）が入学直後の春先に比べ、「夕陽生らしく」なってきた。授業の様子からもしっかり考えて行動する「自主・自律」が育成されているように感じた。

第3回（1月31日）の協議

○学校教育自己診断について

- ・進路関係で保護者向けセミナーを実施すれば、保護者との関わりができ、理解が深まり、保護者も成長できるのではないか。→現在実施分を含め実施日時と周知方法を工夫する。
- ・自己診断の文言で「楽しい」を「充実している」にする方が良いのではないか。→府に確認する。

○卒業生、保護者の立場から

- ・現状、工夫された授業が展開されているため、生徒の顔つきが良くなってきている。

○進路指導について

- ・グローバル人材育成、音楽教育については、大学側の働きかけにすべて応じていくのか、それとも本校の強みに絞って継続していくのか。広く情報を得て生徒に提供するとよいのではないか。→高大接続については、各大学の動きを把握するとともに、高校側も情報提供を確実に実施していく。さらに、入試に向けたEポートフォリオの有効活用を検討している。

○その他

- ・ここ数年、生徒の成果を見てきた。今の流れでよいと思う。教員の多忙を考えると単年度で見ると、中期計画を元に議論してもよいのではないか。
- ・「確かな学力」を育成するための取り組みから3年先を見据えて議論しても良いのではないか。→単年度のみでなく3年スパンで考える形をとっていききたい。
- ・受身の生徒ではなく、自分で答えを見つけて行きたいタイプの生徒が多い気がする。
- ・音楽科については、生徒のことを良く考えてもらい、具体的に実践してもらって感謝している。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 進路希望実現	(1) 次期学習指導要領を見据えたカリキュラム・マネジメントを確立し、「確かな学力」を育成する。 (H28 学校経営推進費事業)  (2) 系統的にキャリア教育を推進し、進路目標を明確にし、実現につなげる。	①総合的な学習の時間「夕陽学」を軸に、各教科・教育活動の見える化を図り、カリキュラム・マネジメントを生かす。 ②指導教諭を中心に「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざした授業を行い、その評価方法について研究する。 ③次期学習指導要領の内容について、各教科で国の動向を把握し、教育課程の検討を始める。 ④各学年の生徒に応じた進路の取組を行う。 ：スケジュールの早期提供、模試の事前・事後指導、学びの履歴書の作成 ⑤3SKで働き方改革と一つ上の成績をめざす。	①3年間の総合・教科・行事等の活動とその関連性がわかる一覧表を作成 ②全ての教科で問題解決型学習を実施、複数の教科でルーブリック評価に基づくパフォーマンス課題を実施、授業アンケート平均 3.3 以上 (H29:3.38)、大教大「学び舎」等外部研修への参加 ③関連研修への参加と還元研修実施 ④進路講座実施回数H29 維持、志望校決定率7割以上 (H29:6割)、国公立関西5私大(関関同立近大)200名合格 (H29:341名) ⑤学習状況調査の変容度	①一覧表作成 例)世界史と台湾修学旅行との関連など (○) ②評価方法の工夫点を共有、複数教科でルーブリック評価実施。授業アンケート3.45 大教大学び舎9名、教務研2名、英語3名参加 (◎) ③職員会議で概要と移行期の取組を冊子にして報告 (○) ④実施31回・維持、志望校決定率6割、国公立関西5私大313名 (○) ⑤総合点偏差値の上昇 (○)
2 自主・自律	(1) 基本的な生活習慣を確立し、学業及び行事に主体的・協働的に取り組む。  (2) 学校、保護者、地域が一体となって安心安全で温もりのある学校・街づくりに参画する。	⑥学生自治を基本に、学校生活・行事・部活動に主体的・協働的に取り組み、快活な学生を育てる。 ⑦「こころの再生」にかかるあいさつ、学校・地域のクリーンアップ、高齢者施設、病院との交流活動を行う。 ⑧教育相談・支援体制に基づき、家庭、専門人材、外部機関等と連携し、生徒一人ひとりに応じた教育活動を推進する。 ⑨「夕陽丘高校いじめ防止基本方針」に基づき、「夕陽丘高校いじめ対策組織」を中心に、学校全体でいじめの未然防止、早期発見・早期解決に取り組む。 ⑩防犯・防災を含む危機管理体制を日常化し、安心安全な教育環境を整える。	⑥遅刻総数700以下 (H29:814)、遅刻撲滅スタンブラリー実施、リーダー研修実施、自己診断90%以上維持 (H29:92.6%) ⑦あいさつ週間の設定、自己診断80%以上 (H29:91.1%)、活動回数10回以上 (H29:19回) ⑧自己診断80% (H29:80.7%) ⑨「夕陽丘高校いじめ防止基本方針」点検 教職員：自己診断90%以上 (H29:90%) ⑩実践的な避難訓練の実施、大阪府防災支援事業の活用、大規模災害時初期対応マニュアル等の点検	⑥遅刻(12月)790回、対話型指導の実施、リーダー研(7/24)自己診断89.1%(△) ⑦自己診断88.2%、活動回数15回 (◎) ⑧自己診断75.5% (△) ⑨点検し、年度当初に保護者・生徒・教職員に周知。自己診断83.6% (△) ⑩実践的な避難訓練(6/8)、3SK研修、実践発表(1/23)実施 (○)
3 グローバル人材育成	(1) YGR(*1)と連携し、海外研修を通じて、多様性を理解するとともに、自身のキャリアデザインを考える。 (H28 学校経営推進費事業)  (2) YGRと連携し、国内にいながらにして国際交流を体験できるような様々な機会を提供する。 (H28 学校経営推進費事業)	⑪海外修学旅行、ニューヨーク語学研修、ウィーン音楽研修を継続、ニューヨークフィールドワークを新規企画する。 ⑫グローバルに使える力として多様性・英語の4技能をバランスよく育成する。 ⑬学校経営推進事業の集大成としてワールドフォーラムを実施する。 ⑭海外からの学校訪問や留学生を積極的に受け入れ、日々の学習活動と関連をもたせ、国際交流の内容を深化する。 ⑮生徒の主体的な取組を含め、国際交流の活動を学校全体で計画的に行う。	⑪事後アンケートの変容度20%以上 ⑫英語学力調査のスコア(生徒の8割):500、(H29:488)、英検2級合格者:40名(H29:58名)、講座回数:各学年1回以上、スピーキングテストの実施と研究、コミュニケーション英語の英語利用率:40% ⑬実施内容(充実度)についてのアンケートの肯定回答率80%以上 ⑭新規の交流内容を実施、留学生の日本語教室を実施、自己診断85%以上(H29:90.6%) ⑮国際交流活動年3回実施、国際に係る生徒の取組人数600人以上	⑪海外修学旅行28.6%、ウィーン、ニューヨークフィールドワーク(3月)(◎) ⑫GTEC:1年上位8割805/1080、2年上位8割820/1280 英検2級合格85名、講座1回以上、テスト実施、利用率40% (◎) ⑬肯定回答率84% (○) ⑭相互のホストファミリー、交換留学、留学生12名、日本語教室24回、自己診断89.6% (◎) ⑮3回(クラークスタウン高校交流、AIG 米国高校生外交官交流、韓国リンカーンスクール)、国際に係る生徒延べ人数1000人 (◎)
4 国内最高の音楽教育	(1) 国や府の推進事業等を積極的に活用し、国内外のトップアーティストを招聘した特別レッスン、特別公開講座を実施する。  (2) 生徒等の企画運営による学内演奏会やアウトリーチ活動を展開する。  (3) 国内及び海外の大学・音楽学校と連携し、交流や短期留学を促進する。	⑯国際舞台で活躍することを意識した特別レッスン、特別公開講座を取り入れる。 ⑰一流の指揮者を招聘して、ザ・シンフォニーホールでの定期演奏会、音楽科25周年(2020年)事業を企画する。 ⑱校内のヴィオーラホール等を活用して、また、近隣ホール・小学校、地域での音楽会を実施する。 ⑲大阪教育大学、台湾、オーストリア、ハワイの学校等と交流を継続する。	⑯特別レッスン・公開講座の満足度100%(H29:100%)、留学に関する講座の実施 ⑰実施内容、事後アンケートの満足度100%(H29:100%) ⑱校内、近隣ホール・小学校、地域での音楽会の実施回数6回以上(H29:6回) ⑲年間5回以上	⑯レッスン13回、講座4回、満足度100%、留学講座1回(○) ⑰シンフォニーで実施、満足度100%、音楽科25周年の日程・会場・指揮者を決定(◎) ⑱8回実施(校内1、校外7)(○) ⑲8回実施(AIG、大阪芸大、ドイツ古楽器WS、プナホウ、台湾、ウィーン等)(◎)
※ 広報	広報の在り方を検討する。	⑳学校の取組を「届けたい人に届く」「希望する人に届く」形にする。:動画作成、WEBページ、掲示板、学校通信の見直し	⑳中学生対象説明会等の本校生徒の参加数200名以上、動画英語版6月中完成、掲示板月1回更新	⑳278名、英語版作成済、掲示板月1回以上更新(◎)

\* 1 YGR…Yuhigaoka Global Revolution グローバル市民の育成を期して行う学校全体の取組及び委員会